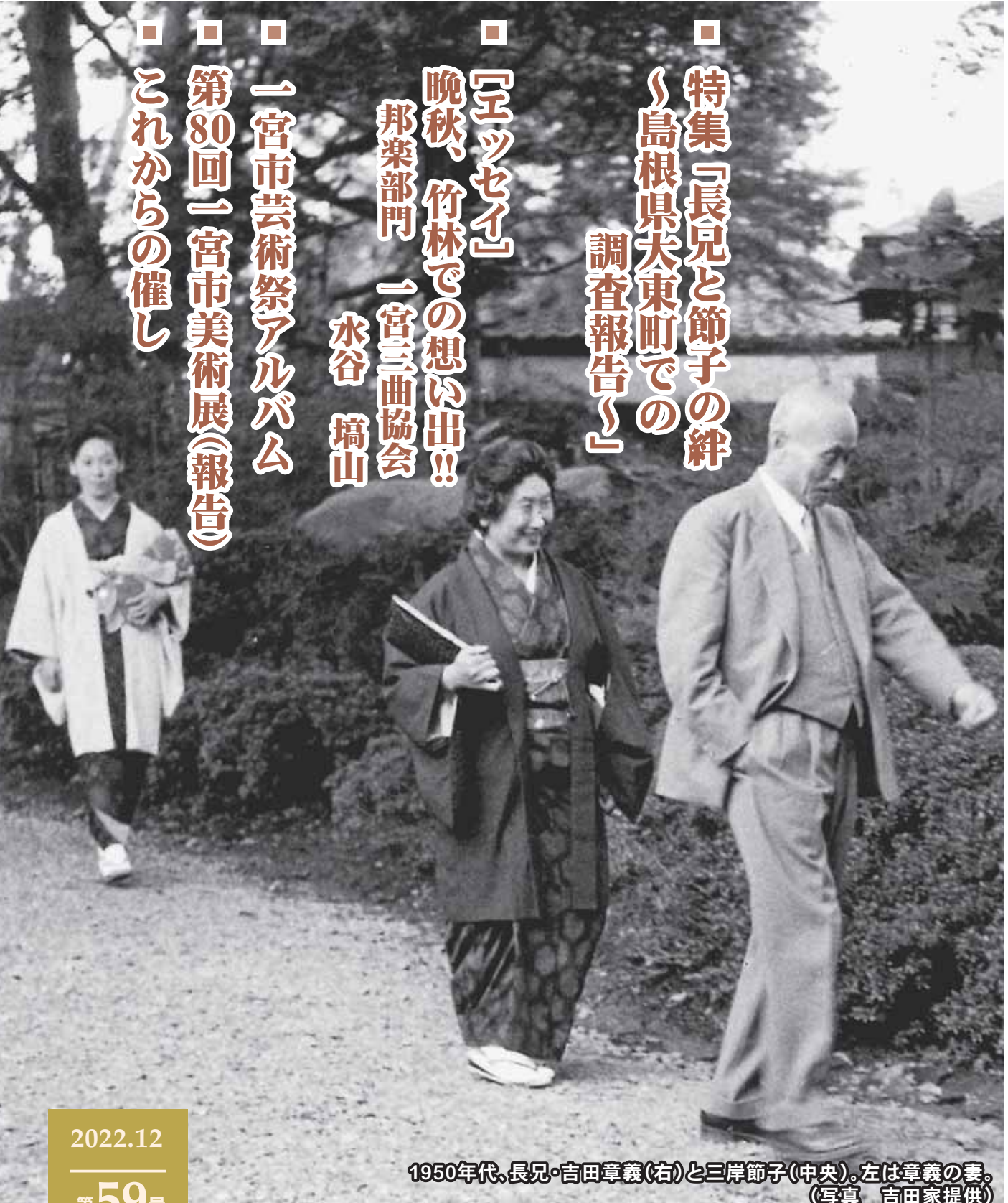


いちのみやの芸術文化

■ 特集「長兄と節子の絆
〜島根県大東町での
調査報告〜」

■ 「エッセイ」
晩秋、竹林での思い出!!
邦楽部門 一宮三曲協会
水谷 瑠山

■ 一宮市芸術祭アルバム
■ 第80回一宮市美術展(報告)
■ これからの催し



1950年代、長兄・吉田章義(右)と三岸節子(中央)。左は章義の妻。
(写真 吉田家提供)

一宮市芸術文化協会

2022.12

第59号

「一宮市」には、一宮市博物館・一宮市三岸節子記念美術館・一宮市尾西歴史民俗資料館など先人の残した文化を紹介する施設があります。私たちの「身近な文化」を学んでみませんか？

長兄と節子の絆

〜島根県大東町での調査報告〜

1 長兄・章義の理解と支援

起町（現・一宮市）の裕福な大地主の家に、十人兄妹の四女として生まれた三岸節子（一九〇五―一九九九、旧姓・吉田）。一九二〇（大正九）年、十五歳のときに実家の織物工場が倒産すると、自身の手で一家の名誉を取り戻すことを誓い、洋画家を目指し上京を決意します。当時は女性が洋画壇で活躍する事例は皆無に等しかったため、家族は猛反対しますが、長兄の吉田章義（あきよし 一八九四―一九八〇）だけは唯一理解を示し、節子を後押ししました。翌年、単身上京を果たし美術学校に通った節子は、一九二四（大正十三）年に首席で卒業すると、在学中に出会った洋画家・三岸好太郎（一九〇三―一九三四）とほどなく結婚し、二十歳で第一子を出産します。

ところが家族の反対を押し切って上京した節子は、結婚・出産の事実を両親に伝えることができません。章義宛ての手紙にそのことを記すと、驚いた章義はただちに上京し二人に面会し、互いに型破りな性格の章義と好太郎はすぐに意気投合し、章義は家長として二人の結婚を認め、毎月の仕送りを約束しました。送金は数年続き、一九二九（昭和四）年に二人が念願のアトリエ付住居を新築した際には、五百円の大金を援助しています。

しかしながら次第に吉田家の没落は進み、一九三二（昭和七）年頃には章義からの送金は完全に途絶えてしまいます。その後、一九三四（昭和九）年に好太郎が病気のため三十一歳の若さで急逝すると、節子は三人の子どもを抱えるシングルマザーとして、挿絵やエッセイ、講演会などの雑収入でかろうじて生計を立てるほかあ

りませんでした。節子がようやく画家として絵だけで生活ができるようになったのは、一九五〇年代に入ってからでした。

2 島根県に移った章義

章義は一九三九（昭和十四）年、金貸しをしていた叔父の紹介で島根県大東町（現・雲南市）に移り、モリブデン採掘権を継承し清久鉱業株式会社を設立、成功を収めます。戦後数年間の不況を乗り切り、一九六〇年頃には月四〇tの精鉱を生産し百人以上の従業員を抱える最盛期を迎え、大東町誌や島根県の人物事典に掲載されるほどの大実業家となりました。

大東町に移ったあとの章義と節子の関係については、これまでほとんど調査がなされていませんでした。けれどもあれだけ節子を可愛がっていた章義が、大東町で再起を果たしたあと、節子の支援を再開しないはずがないのでは…？。その推察のもと二〇二一年秋頃から雲南市立大東図書館等と連携しながら調査を進めた結果、これまで知られていなかった事実が次々と掘り起こされました。例えば、一九五〇年代に節子と長男・三岸黄太郎（こうたろう 一九三〇―二〇〇九）が

たびたび大東町を訪れていたことや、一九五六（昭和三十一年）年に大東町で節子・黄太郎親子展が開催されていたこと、章義が大東町に好太郎・節子・黄太郎親子三人の美術館の建設を構想し、その用地を取得していたこと。そして清久鉱業関係者宅や島根県内の金融機関で複数の節子作品が見つかり、その調査結果は現地の新聞でも取り上げられました。

一九六〇年代に入ると大東町の採掘業は安価な輸入鉱石に押されるようになり、清久鉱業は一九六五（昭和四〇）年に会社更生法の適用を受け、二年後に閉山しました。章義はその後大東町に住み続け、一九八〇（昭和五十五年）に八十六歳で亡くなりました。好況時に建てた「吉田御殿」と呼ばれた純和風の居宅は、所有者は変わりましたが今も残っています。往時は庭園の池に百匹以上の鯉が泳ぎ、町の小学校の遠足先になっていたそうです。

今回の調査では、章義の没後に妻の養子となられた方とお会いすることができ、数百枚に及ぶ写真資料を見せていただく機会がありました。その写真を細解くと、三岸親子の美術館の建設に向けてか、吉田御殿に好太郎と節子の代表作が集まっていたことを窺い知ることができました。

清久鉱業が好調だった一九四〇〜六〇年頃、節子は国内で静物画家として充実した時期を過ごしていますが、その頃の重要な作品のいくつかが現在行方不明となっています。それらの作品が今後、島根県やその周辺で見つかることがあるかもしれません。

「吉田御殿」を飾る節子・好太郎作品
（写真 吉田家提供）



▲三岸節子《くちなし》1953年、ウッドワン美術館蔵 ©MIGISHI

3 最後に

章義と節子との関係は、一方的に章義が支援するばかりではなく、章義の事業が不調に陥ったときには、逆に節子が支援（II作品を提供）する側に回ることもありました。フランスに渡った節子が、一九七一（昭和四十六年）の日記で次のように記しています。切っても切れぬ兄妹の絆が感じられる一文でしょう。

やはり章義兄には困ることも多いが、肉親というなつかしきは遠い異境にあつては、血が騒ぐ。章義兄のことを考えると人間的にいたましい思いにふさがれる。私も同じことだが、この世界で生きてゆくにはいたましすぎる人間である。（中略）私もこの兄を見ると、自画像を見ているような心地になる。あまりに似すぎているために。また愛しているために。

『三岸節子 仏蘭西日記カーニユ編（一九六八〜一九七一）』
二〇一〇年、三四四―三四五頁

（一宮市三岸節子記念美術館
学芸員 長岡昌夫）



▲三岸好太郎《陽子像》1927年頃、北海道立三岸好太郎美術館蔵

晩秋、竹林での思い出!!

邦楽部門

一宮三曲協会

水谷 みずたに

塙山 こうざん

晩秋に入ると二十数年前の思い出が蘇ります。それは十月初旬、竹友（尺八仲間）と美濃路をドライブしての帰り道、近くの山裾の竹林が目にとまりました。車を止めしばらく眺めると思いが一致してきました。

“あの竹で尺八を作ろう!!”

竹の成長が止まるのは空気が乾燥する十一月〜翌二月までと言われております。この時期の水気の無い竹が尺八づくりに向いているのです。

そこで十二月のある朝、のこぎり、小スコップ、根切り用ハサミその他必要工具を揃えリュックに入れ、七時に出発しました。山主の了解をとり山林に入りました。三十分もすると山道には、実の付いた草木、枯れた木肌等、なかなか気分の変わりを感じるものです。

現場に到着後、適寸に合った竹を見つめます。尺八は地面から地中に埋もれている節の三節位を利

用し、また地上1m位を残して切り出します。それを念頭に入れ掘り出しにかかります。

するとそれまで気持ちの良かった野鳥のさえずりが急に激しくなってきたのに気付きました。

“縄張りに侵入者が来たぞ”

とばかりに周りから聞こえてきました。育雛（いこすう）でもしていたのでしょうか？野鳥も懸命です。思いもよらぬ体験で、

“早く竹を掘り出しこの場を離れよう。鳥にすまない”

との思いで急いでその場から移動しました。

掘り始めから根切りまで、一本掘るのに三十分〜四十分かかります。午前中に三〜四本掘り出しました。昼食は竹林内でその竹を並べ、批評しながら持参したおにぎり等を食べました。

暖かい陽光を浴びて休息をとるのも気分の良いものです。

その時にリスを見ました。自然の中で木上を走り回り飛び移る様

地上にて木の実をほおぼる姿は初体験で、昼のひと時を楽しませてくれました。

再度竹の掘り出しにかかり計七〜八本の竹を得てそれを余分の竹にくくり天秤状にし、肩にかけ山を下ります。途中の小川で根の泥を洗い落としました。山主宅に御礼の報告をした折には丁寧にもお茶のもてなしを受け、一時間程話しがはずみました。

帰路につくと空は美しい夕映えでした。

森林浴を楽しみながら時々零れる朝日の温かさ、林間の小川のせせらぎの心地良さ、野鳥たちのさえずりを浴びる清々しさ等…。

晩秋のひとときを友と共に緑の香りを深呼吸しながら過ごした過去の思い出をつづりました。



令和3年一宮三曲協会定期演奏会

第77回 一宮木芸術祭

開催報告(9・10月分)

音楽部

一宮シティ合奏団 第28回定期演奏会



10月16日(日)
尾西市民会館
一宮シティ合奏団

第49回一宮音楽家協会 定期演奏会



10月30日(日)
木曾川文化会館 尾西信金ホール
一宮音楽家協会

第18回あざみの会絵画展



9月29日(木)～10月2日(日)
一宮スポーツ文化センター
あざみの会

山ぶどうの会展



10月6日(木)～9日(日)
一宮スポーツ文化センター
山ぶどうの会

美術部

第23回能・狂言面作品展



8月30日(火)～9月4日(日)
玉堂記念木曾川図書館
尾西面打会

第21回一宮写真協会選抜写真展



9月10日(土)～19日(月・祝)
博物館
一宮写真協会

第56回麗筆会展



9月23日(金・祝)～25日(日)
一宮スポーツ文化センター
麗筆会

土筆の会展



10月6日(木)～9日(日)
一宮スポーツ文化センター
土筆の会

文学部

狂俳大会



10月8日(土)
葉栗公民館
一宮狂俳壇連盟

一宮市尾西俳句大会



10月10日(日・祝)
尾西生涯学習センター
尾西俳句会

一宮現代詩発表会



10月23日(日)
一宮スポーツ文化センター
一宮現代詩協会

第23回桃墨会展



10月25日(火)～30日(日)
尾西信用金庫事務センター
桃墨会

第80回

一宮市美術展

11月17日(木)～20日(日)まで、一宮スポーツ文化センターで「第80回一宮市美術展」が開催されました。

市内を中心に近隣市町村や県外からも多数作品が寄せられ、審査の結果、入賞となった146作品をはじめ506作品が展示されました。

期間中は、約3、200名の方々が来場され、作者の熱い思いが詰まった作品を熱心に鑑賞されていました。

また、金曜日は終了時間を午後7時まで延長し、お仕事帰りの方などが来場されていました。

会期中には審査員による種目別解説が行われました。市長賞、教育委員会賞、第80回記念特別賞などの解説に、来場されていた方々はとても熱心に耳を傾けておられました。

市長賞受賞作品は一宮市博物館で行われた「いちのみやアートアニュアル2022」(12月3日(土)～18日(日))でも展示されました。

市長賞を受賞された方は次のとおりです。なお、掲載順は順不同です。(敬称略)

市長賞

日本画	近松 妙子
洋画	飯田 崇雄
洋画	江口 和夫
洋画	松岡 里奈
彫刻・立体	堀部 美奈子
工芸	野沢 あや子
デザイン	松原 みなほ
書	後藤 柳月
書	永田 張羽
書	前野 樹風
写真	水野 雅央



写真部門解説
(解説:武鹿千代さん)

文化講演会 10月15日(土)開催
尾西市民会館

子育て、そして…がん
アナウンサーパパ奮闘記

フリーアナウンサー
笠井 信輔 さん



10月15日(土)に尾西市民会館で開催し、483名の方が参加されました。

フリーアナウンサーに転身直後から体験された闘病生活の話には、多くの方が感慨深く耳を傾けていらっしやいました。

子育てや家族の話題など、ユーモラスな口調で、何度も会場を沸かせるなど、とても盛況な講演会でした。

県文化協会連合会の催し

西尾張部芸能大会(報告)

11月27日(日)、愛知県文化協会連合会西尾張部芸能大会が、岩倉市総合体育文化センターにて開催されました。

西尾張部に所属する10の文化協会の各団体が参加されました。

本協会からは、「柳翠剣詩舞道会」(音楽部・吟剣詩舞部門)の皆様が出演され、漢詩や和歌などにあわせて舞を演じられました。「将に東遊せん」として壁に題す「両英雄」(龍虎川中島)「武田節」の4曲を披露され、会場からは惜しめない拍手が送られました。



愛知県民茶会(報告)

11月13日(日)、西尾市文化会館他を会場に、愛知県民茶会が行われました。愛知県文化協会連合会と西尾市文化協会のご尽力により、9つの文化協会の皆様が設席をされ、当日は約2,700人の方が来場されました。

『いちのみや文芸』を発刊

10月15日(土)に「いちのみや文芸第51集」を発刊しました。随想・随筆、現代詩、漢詩、短歌、俳句、狂俳、川柳の7部門あわせて244名の方から寄せられた1,927作品を掲載しています。ぜひ一度、手に取ってお読みください。価格は1冊800円です。ご希望の方は事務局(市教育委員会生涯学習課)までお尋ねください。

第47回 愛知県文連美術展

会期 2月21日(火)～26日(日)

午前10時～午後6時

(24日は午後8時まで、26日は午後4時まで)いずれも

入場は閉館の30分前まで

会場 愛知芸術文化センター

入場料 600円(前売500円)

高校生以下無料

※生涯学習課で前売りしています。

一宮市表彰条例 による表彰

9月1日(木)、一宮市尾西市民会館において、市制施行101周年記念式典が行われました。式典では当協会の森恒夫理事(謡曲部門)が文化功労者として、その永年にわたる功績を讃えられ、一宮市長より表彰を受けました。
心からお慶び申し上げます。

文化情報



「愛」

川浦 碧濤

加入団体の 催し

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況により、掲載している催しや教室などは中止・延期等になる場合があります。開催状況は、問合せ先へお尋ねください。

『市民短歌教室』

【問合せ先 真清短歌会】

☎(51)3570

日時 ▼ 1月8日(日)・2月12日(日)

3月12日(日) 午後1時～

会場 ▼ 一宮スポーツ文化センター

内容 ▼ 真清短歌会委員により実作

『狂俳月例会』

【問合せ先 一宮狂俳壇連盟】

☎(78)5002

日時 ▼ 1月14日(土)・2月11日(土)

3月11日(土) 午後1時～

会場 ▼ 葉栗公民館

内容 ▼ 各自10句持参、互選により

優秀作を記録に残します。

(初心者歓迎)

参加料 ▼ 無料

指導します。(初心者歓迎)

参加料 ▼ 無料

申込み ▼ 初参加の方は開催日の3

日前までに電話で生涯学

習課(☎(85)7074)

『能・狂言面の制作』

【問合せ先 一面会】

☎(69)7372

日時▼1月14日(土)・28日(土)

2月11日(土)・25日(土)

3月11日(土)・25日(土)

午前9時30分〜正午

会場▼アイプラザ一宮第5会議室

内容▼日本伝統の能・狂言面を

講師の見本面を借り、指導を受けて制作します。

(初心者歓迎)

参加料▼月3,000円

(見学は無料)

申込み▼当日直接会場

『市民俳句教室』

【問合せ先 一宮市民俳句教室】

☎(73)0282

日時▼1月15日(日)・2月19日(日)

3月19日(日) 午後1時〜

会場▼一宮スポーツ文化センター

内容▼当季雑詠2句を一宮市民

俳句教室委員が指導します。(初心者歓迎)

参加料▼無料

申込み▼開催日の前月末(必着)

までに参加希望日・当

季雑詠2句(初参加の

方は希望者だけ)郵便

番号・住所・氏名(ふ

りがな)・電話番号・参

加経験の有無を記入し、

ハガキ(〒491-8501 本庁

舎生涯学習課)

申込み▼初参加の方は開催日の

3日前までに電話で生

涯学習課(☎(85)70

74)

『新年短歌大会』

【問合せ先 真清短歌会】

☎(51)3570

日時▼1月22日(日) 午後1時〜

会場▼一宮スポーツ文化センター

内容▼事前募集した中から互選

により優秀作を表彰しま

す。

参加料▼500円(見学無料)

申込み▼1月10日(火)までにハガ

キにて雑詠一首提出

【問合せ先 一宮漢詩瀟聲會】

☎(78)7953

日時▼1月28日(土)・2月25日(土)

3月25日(土) 午前10時〜

会場▼中央図書館

内容▼漢詩文の基本的な読み方

をはじめ、作者の時代背

景にも触れながら初めて

の方にも分かりやすく

「唐詩三百首」を解説し

ます。(初心者歓迎)

興会会長)

参加料▼月2,000円

申込み▼当日直接会場

『令和4年度(公社)中部日本書道会一宮支部講演会』

【問合せ先 (公社)中部日本書道会一宮支部】

☎090-8130-0713

日時▼1月29日(日)

午後4時〜5時30分

会場▼一宮スポーツ文化センター

演題▼「船橋物語〜美濃路と各地の船橋の歴史」

講師▼神田年浩さん(一宮市博物館学芸員)

入場料▼無料(一般聴講歓迎します)

申込み▼当日直接会場

「いちのみやの芸術文化第58号(令和4年6月)」の特集に一部誤りがありましたのでお詫びして、訂正させていただきます。

※2頁承久の乱両軍対軍図

【誤】野村宗茂 【正】狩野宗茂

●本誌をご覧になり、ご意見、ご感想などございましたらお気軽に下記事務局までお寄せください。

局までお寄せください。

【題字】武山翠屋
【編集・発行】一宮市芸術文化協会

【連絡先】一宮市芸術文化協会事務局(市教育委員会生涯学習課内)
〒491-8501 愛知県一宮市本町2丁目5番6号
TEL 0586-85-7074 / FAX 0586-73-9213